



大志の学び舎

# 世田谷区立太子堂小学校



『教師は授業 家庭は愛情 地域で育つ 9年間』

## 6月の目標

人格の完成を目指して  
「責任」

### <安全>

- ・雨の日の安全な過ごし方を考えよう

### <保健>

- ・歯を大切にしよう

### <給食>

- ・手をきれいに洗おう

### <あいさつ>

- ・自分から進んであいさつをしよう



〒154-0004

世田谷区太子堂5-7-4

電話 03 (3413) 4621

FAX 03 (3413) 4799

## 大人は誰でも、最初は子どもだった

校長 廣瀬 維謙

校庭の木々の緑が日を追うごとに濃くなってきました。また、日差しも強くなってきて、屋外での活動は眩しさを感じられるほどです。

さて、最近では自分勝手としか思えない事件や交通事故などが起き、心が痛みます。そうした世相を受けてか、日頃お世話になっている方との会話の中で、「今の時代、気候ばかりだけでなく、人間がそして社会が変調しているように思います。教育界も難しい問題が増えてはいませんか。」という言葉がありました。確かに社会は変化しています。しかし、学校は常に現実を直視して、子どもたちに夢をもたせ、前向きに活動していく場です。そのためには、時代や社会の変化に対して、適切に対応しながら、今も変わらないことを中心に教育活動を進めたいと考えています。

その一つが、本来の子どもの姿を理解して育むことです。例えば、子どもは“人や自然との関わりの中で学ぶもの” “好奇心が旺盛で様々なことに興味をもつもの” “体を動かすことを好むもの” などです。もちろん個人差はありますが、これらを心に留め、一人一人の健やかな成長を培うことに生かすことが大切です。

しかし、フランスの小説家アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリが書いた「星の王子さま」の一文、「大人は誰でも、初めは子どもだった。(しかし、そのことを忘れていない大人は、いくらもない。)」のように自分も子どもだったことを忘れて、子どもがもっている様々なものを無視して、育んでいるとしたら、子どもはどんな姿になっているのでしょうか。そこには、本来もっているものを全く発揮できていない、それどころか失いかけている姿があるかもしれません。そうだとすると、それは私たち大人の責任です。大人が他者との良好な関わり方を見せていなかったり、子どもが失敗しないようにと何事にも手を出し過ぎたりなど、それでよいのでしょうか。改めて、子どもたちをどのように育んでいるか、振り返ることが必要です。

私たち大人が、子どもの頃にもっていたものをなくしてしまったとは思っていません。ただ、埋もれているだけなのです。そうさせているのは、物事を損得で判断したり、先入観や思い込みだけで決めつけてしまったりと、子どもの頃にはなかった感覚や思考などが優先されているからだと考えます。

「大人は誰でも、最初は子どもだった。」ことを思い出し、「自分が子どもだったらこうしたいだろう」と、保護者や地域の皆様と一緒に子ども目線で捉えながら、子どもたち一人一人がもっているよさや可能性を伸ばしたり、必要な力を育んだりしていきたいと思えます。今月も、どうぞよろしくお願ひいたします。